

2016 - 17年度 RI テーマ



人類に  
奉仕する  
ロータリー

Rotary International  
国際ロータリー会長  
ジョン F. ジャーム



四つのテスト

言行はこれに照らしてから

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

良き出合いを大切に!

第2660地区  
八尾東ロータリークラブ  
YAO EAST ROTARY CLUB  
●創 立：1973年2月23日  
●会 長：中澤 剛  
●幹 事：高橋 広一  
●会報委員長：上山 惣太

今週のプログラム

第2102 回例会

- ① 開会 点鐘
- ② ソング 「奉仕の理想」
- ③ ビジターの紹介
- ④ 会務報告  
「会長の時間」「幹事報告」
- ⑤ 委員会報告  
「出席報告」「各委員会」「ニコニコ報告」
- ⑥ 卓話 「組織増強について」  
品川 芳洋会員増強委員長
- ⑦ 閉会 点鐘

\*8/27 (土) 地区ロータリー財団セミナー  
於：大阪YMCA会館 2Fホール  
登録 13:30~14:00 会議 14:00~17:00  
中澤 剛会長・大橋 秀造R財団委員長

出席予定

来週の予定

第2103 回例会 9月2日(金)

☆新入会員入会式 <sup>つじもり えいいち</sup> 辻盛 英一 新会員

★例会前：9月度定例理事会

☆交換卓話「エコ経営のすすめ」

八尾RC ロータリー財団副委員長

笠井 実様

\*同行者 八尾RC 会長 山本 昌市様

☆9月誕生月祝 森下会員、大橋夫人、武田夫人

☆9月結婚記念日祝 高橋会員、山田会員

\*9/3 (土)

クラブ米山奨学委員長・幹事・

米山カウンセラー研修会

於：大阪科学技術センター 8階中ホール

登録 13:30~ 会議 14:00~16:00

桑田米山奨学委員長・高橋幹事 出席予定

前週の例会記録

2016年8月19日(金)

出席報告

例会数	会員数	出席数	出席率	備考
第2101回	28名	18名	81.8%	出席義務免除 7名(出1)
第2099回	28名	20名	95.2%	補 填 2名

ニコニコ箱

●非常に暑い日が続いています。皆様、お身体、お気を付け下さい。

谷村会員、卓話期待しています。 中澤 剛会員

●辻田さん「友」の紹介ご苦労様です。

谷村さん、野球の歴史、丁度高校選抜野球終盤で

す。地元勢は敗退して残念です。奥田 長二会員

●谷村君、今日卓話楽しみです。 池本 繁喜会員

●谷村さん、卓話御苦労様です。楽しく聞かせて頂

きます。 桑田 タア子会員

★例会場：(株)西武百貨店八尾店8階バンケットルーム TEL:072(997)0111 内線5580 ★例会日時：毎週金曜日12時30分

★事務所：〒581-0803 大阪府八尾市光町2丁目60番 西武百貨店内 TEL:072(997)0626 Fax:072(997)2620

★http://www.yaohigashi.org/ E-mail:yaohigashi@japan.email.ne.jp

●慰労会の残金をニコニコ箱へ。

新旧役員理事メンバー

●**今回合計 14,510円**

●**累計 249,510円**

## 会長の時間

本日は、ガバナー月信 8月号のトピックスを報告いたします。

・まず、ガバナーメッセージでは、今月の会員増強・新クラブ結成推進月間について言及されています。

ジョン・F・ジャームRI会長が、「ロータリー財団100周年」、「ポリオ撲滅」に並び、「会員増強」を重点項目として列挙されており、単に数ではなく、将来にロータリーのリーダーになれるロータリアンの増強を目指すとされています。4/10-15に開催の2016年規定審議会では、会員資格や入会金などクラブに裁量権を与え、自主性を重んじる議決が多くなされました。これも会員増強の一環と推察されています。

次に、日本を3ゾーンに分割し（当地区は第3ゾーンに属します）、当地区で「第3ゾーンロータリー戦略計画推進セミナー」が開催され、ゾーンレベルでの戦略計画において、第2660地区では、クラブ奉仕・拡大増強委員会を中心として、取り組むという事が報告されています。

このように会員増強はRI、ゾーン、地区が一丸となって注力すべき課題ではありますが、最も重要な役割を担い、会員増強の礎であるのは最前線であるクラブそのものであると述べられています。

また、勧誘と退会防止の一策は「魅力あるクラブ活動と広報」であるという事も記載されています。

・クラブ奉仕・拡大増強委員会 新居委員長からも本年度の地区の具体的目標の1つである「戦略計画の推進（会員増強）」において、戦略計画の3本柱は

①クラブの活性化とサポート。

②人道的奉仕の重点化と増加。

③公共イメージと認知度の向上。

とし、この3つの戦略をバランス良く実施することが会員増強に繋がると述べられています。

・2019-20年度ガバナー候補者推薦について、地区内の各クラブで2019年-20年度ガバナー候補者がいらっしゃる場合は、2016年10月31日までにガバナー指名委員会委員長（地区ガバナー事務所）宛で必着するよう提案して下さいと報告されています。

## 幹事報告

①8/20（土）にクラブ職業奉仕委員長 地区委員合同勉強会が開催され、大松職業奉仕委員長が出席予定です。

## 卓話

### 「高校野球の歴史と現状」

谷村 政哉会員



#### 1915-1939年

全国中等学校優勝野球大会の名称で、第1回は10校が参加して1915年に開催された。場所は大阪の豊中グラウンド。甲子園球場（当時は甲子園大運動場）が完成するのは24年だった。米価が暴騰し、米騒動が起きたのは18年。地方大会を勝ち抜いた14校が大阪入りしていたが、大会は中止になった。JOBK（現NHK大阪放送局）がラジオで実況放送を開始したのは27年。29年、甲子園球場のアルプススタンドが完成し、翌年、参加校数は500を突破した。ただ、37年に北京郊外で盧溝橋事件が起きるなど、戦時色は徐々に強くなっていく。

#### 1940年代 戦争による中断、そして復活

太平洋戦争への突入、その後の敗戦と、1940年代は高校野球の歴史にとっても暗雲に覆われ

た時代だった。太平洋戦争が始まった 41 年は地方大会のみ実施され、翌年から大会は 4 年間中止に。戦争が終わると、甲子園球場は米軍によって接收された。だが、大会は力強く息を吹き返す。46 年、全国中等学校野球連盟（現・日本高等学校野球連盟）が発足し、西宮球場で大会は再開。47 年に参加校数は 1000 を超え、7 年ぶりに全国選手権が甲子園球場に戻ってきた。翌 48 年は学制改革があり、大会名を現行の「全国高等学校野球選手権大会」に改称。今も歌い継がれる大会歌「栄冠は君に輝く」が全国募集で制定された。

### 1950 年代 できあがる「原型」

戦後の色合いが残る 1950 年代、現在の高校野球の「原型」が少しずつできていく。戦時中に供出されていた内野席の大屋根が 51 年、甲子園球場に戻ってきた。銀色のアルミ製で、「銀傘（ぎんさん）」という愛称がその後、定着していく。ポジションを示す「背番号」を初めてユニホームにつけてプレーしたのは 52 年。翌 53 年には、NHK が初めてテレビの実況中継を始めた。56 年には初のナイター試合を実施。58 年、各都道府県から代表が出場し、米統治下の沖縄代表（首里）が初めて甲子園球場の土を踏んだ。

### 1960 年代 カラー中継、高まる列島の熱

戦争が終わってから 20 年以上がたち、第 50 回記念大会が実施されたのは 1968 年だった。64 年の大会から出場選手は全員、戦後生まれになった。大会の規模も徐々に拡大し、高校野球熱も高まっていく。63 年、参加校数は 2000 を突破した。NHK がカラーテレビで中継を始めたのは 65 年からだ。69 年、松山商（愛媛）—三沢（青森）が決勝では初めてとなる延長 18 回引き分け再試合の熱戦を繰り広げ、全国の高校野球ファンを魅了した。

### 1970 年代 49 代表制、盛り上がる故郷対決

1970 年代は、高校野球の質が大きく転換する。理由は木製に代わる金属バットの登場だ。初めて使用が認められた 74 年から、本塁打数は一気に増加傾向となる。ラッキーゾーンが撤去された 92 年に一時、本塁打数は減少するが、73 年までは普通だった 1 大会で 1 けたにとどまるようなことは

なくなった。参加校数が 3000 を超えた 78 年の第 60 回記念大会から、現行の 49 代表制が定着した。

### 1980 年代 攻撃型野球、観客を魅了

1980 年代は、金属バットの威力が発揮され、野球の攻撃力がクローズアップされはじめた年代だった。「やまびこ打線」の呼び名で、池田（徳島）が打棒をふるって全国制覇したのは 1982 年。翌年は、「KK」と呼ばれた 1 年生コンビ、桑田と清原らの活躍で PL 学園（大阪）が強さを見せて頂点に立った。2 人が 3 年生になった 85 年、PL 学園は史上最多の 1 試合 29 得点など多くの記録を打ち立てた。一方、甲子園球場も近代化していく。84 年、手動式だったスコアボードが電光式となった。一定期間以上の教諭在籍を条件に、プロ退団者の指導が認められるようになったのもこの年だった。

### 1990 年代 参加 4000 校を突破

1990 年、参加校数がついに 4000 を突破した。96 年に戦後初めて減少に転じるまで、参加校数は増え続けていく。91 年には外国人学校に門戸が開かれた。95 年 1 月、阪神・淡路大震災が発生。甲子園球場のグラウンドはひび割れ、アルプス席には亀裂が入った。だが、開催が危ぶまれた選抜大会、そして夏の選手権大会は無事に開かれた。男女を問わず、記録員 1 人がベンチ入りできるようになったのは 96 年から。翌年には学校の統廃合によってできた連合チームが大会に参加できるようになった。

### 2000 年以降 次の世紀へ、続く模索

21 世紀に入り、大会の運営も少しずつ様変わりし始めた。2001 年の選抜大会からは、一般選考に加えて、他校の模範になる学校を対象とする「21 世紀枠」が導入された。02 年の選手権からは、ファウルボールが観客にプレゼントされるように。翌 03 年の大会からはベンチ入りできる選手が 16 人から 18 人に増え、選手への門戸が広がった。また、真夏にプレーする選手の健康管理の必要性も議論されるようになる。00 年から延長は 18 回から 15 回に短縮。13 年からは会期中に休養日が 1 日、設けられるようになった。



第2660地区  
八尾東ロータリークラブ  
**YAO EAST ROTARY**